

## LPガスCP速報(2023年2月積)

### 1. 2積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン790<sup>ドル</sup> (前月比+200<sup>ドル</sup>)  
ブタン 790<sup>ドル</sup> (前月比+185<sup>ドル</sup>)

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、上旬はインド、東南アジアの需要に支えられ、寒の入りに合わせてかのように極東に記録的な寒波が襲来し暖房需要が増加、中国のゼロコロナ規制撤廃でPDF・石化需要も回復する一方、サウジ、UAEがターミナルのメンテナンスで出荷削減を予告、需給タイト化が一気に進み市況が急騰した。極東CFR市況は、第1週のプロパン610<sup>ドル</sup>、ブタン620<sup>ドル</sup>が第4週末にはプロパン、ブタン830<sup>ドル</sup>にまで上げている。

米国市場をみると、輸出、需要ともに堅調、全米プロパン在庫は6週連続で減少したが、在庫水準は前年同期比140%、22週連続で前年同期を上回り、5年平均レンジの上位。モンベルビュープロパンスポット価格は、高水準在庫を受けて低迷していたが、原油市況の上昇と中東市況の急騰を受けて反騰、年初の400<sup>ドル</sup>から第4週末には490<sup>ドル</sup>/ト<sup>n</sup>に達し、月間平均は前月比80<sup>ドル</sup>上げの440<sup>ドル</sup>/ト<sup>n</sup>どころ (グラフ①参照)、となっている。

フレート市況は、史上最高値を更新した前月から急落、第3週には中東～極東60<sup>ドル</sup>、米国～極東110<sup>ドル</sup>どころまで下落した。中東ターミナルのメンテナンスで船舶に緩和感が強まったが、米国向け傭船が増え余剰解消に向かっている。中東市場が出荷量減少で市況が急騰、低迷していた米国市況も追従して騰勢を強めており、米国玉の調達は増加するのか、中東の輸出量の動向も含め予断を許さないところ。一方、11月に20日超となっていたパナマ運河の通峡日数は1週間程度まで落ち着いたが、ガルフの濃霧の影響や通峡ラッシュも警戒。

ナフサ市況は反騰、月間平均は前月比48<sup>ドル</sup>上昇の691<sup>ドル</sup>どころ。原油市況の上昇を受けて下旬には720<sup>ドル</sup>まで上げている。コロナ規制緩和で中国はじめ石化の需要回復が本格化。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比20<sup>ドル</sup>反発の405<sup>ドル</sup>となった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同11<sup>ドル</sup>の続落で912<sup>ドル</sup>どころ、低水準在庫により高騰していたガスオイル価格も2ヶ月連続の1,000<sup>ドル</sup>割れとなった。

2月CPは前年同月比プロパン、ブタンそれぞれ15<sup>ドル</sup>上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン27ポイント、ブタン26ポイント上昇、前年同月比ではプロパン、ブタンそれぞれ6ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	80	80	60	80	75
CP先物指標:P	580	725	635	765	676
CP先物指標:B	590	730	615	755	672

#### ② 原油市況等

1月の原油市況をみると、月間平均では3ヶ月ぶりの反発が濃厚、年明け後73<sup>ドル</sup>を割り込んだが、中国のゼロコロナ規制の撤廃による需要回復期待が強まり、8営業日続伸80<sup>ドル</sup>を回復した。一方、原油市況の重石となっているのは、欧米中央銀行の利上げに伴う景気後退懸念。インフレ鈍化で利上げペースが減速するとの観測も、市場のセンチメントは改善されていない。

米国の原油生産量は2020年4月以来の1,200万b/d超が続き、原油・石油製品輸出は過去最高水準となっているが、石油製品在庫は留出油を中心に超低水準。燃料油需要の本格回復には至らず、原油先物指標は期近3~5月限のコンタンゴ(期先高・通常需給緩和を示す)が続く。現行マーケットは需要回復とリセッション懸念で綱引きが行われているが、流動性が低く、ボラティリティが高い状況が続いている。ロシア・ウクライナ情勢に進展はなく、中東情勢を含め世界各地で政情不安など緊迫の度合いを強めていることも懸念材料となりそうだ。

○1月積みアラビアン・ライト(1月1~30日までの想定)は84.20<sup>ドル</sup>(前月比+1.43<sup>ドル</sup>)

熱量等価AL100% プロパン690.35<sup>ドル</sup>/ト<sup>n</sup> ブタン680.88<sup>ドル</sup>/ト<sup>n</sup>

AL比 プロパン114.43% ブタン116.03%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

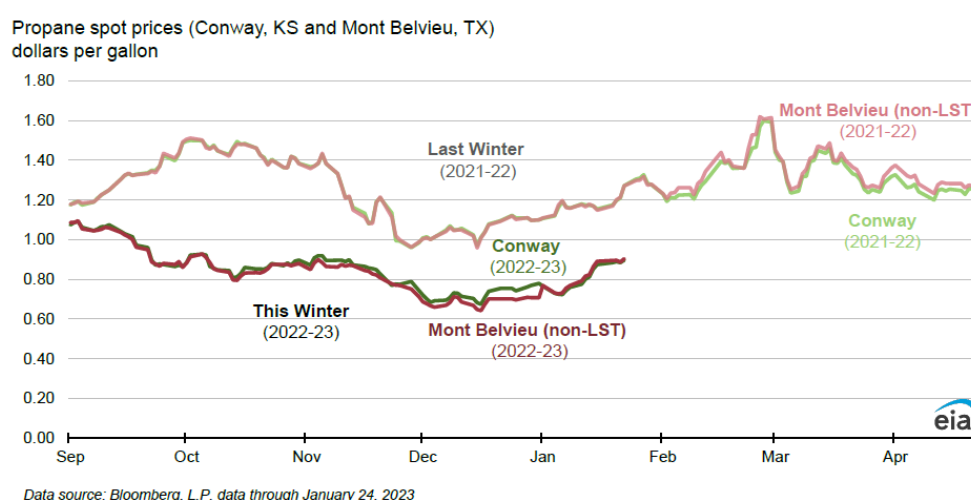
## 2. 2023年2月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	132.51	96,200	102,300	+4,000	+3,600
②末日締め	131.35	94,100	100,800	+3,600	+3,200

\*TTS平均等について、①が12月21日～1月20日、②1月1～31日までで想定。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。プロパンのMB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは1月27日までの価格を基にEINで試算（437ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移



### ②米プロパン在庫推移(全米・メキシコ湾)

